

令和2年度(2020年度)

管理事業名	休日急病診療所事業				総合計画の体系	大綱 3 福祉・健康 政策 4 健康・医療のまちづくり 施策 3 地域医療体制の充実
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 4	衛生費	(項) 1	保健衛生費	(目) 8 休日急病診療所費
部局名	健康医療部	予算執行所属	健康まちづくり室休日急病診療所			
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
<p>事業の目的と概要</p> <p>吹田市立休日急病診療所は、日曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日、年末年始の昼間における応急的な医療を市民に提供しています。令和2年度から吹田市医師会、吹田市歯科医師会及び吹田市薬剤師会に診療運営業務を委託しています。診療科目は内科、小児科、外科、歯科の4診療科です。</p>						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
受診者数	人	6,229	7,009	2,294	休日急病診療所を利用された患者数
成果の説明	<p>令和2年5月31日に総合福祉会館4階から青山台4丁目(北千里)へ移転開設し、令和2年度は年間延べ2,294人の救急患者に対する診療業務を行い、休日等の初期救急医療の確保に努めました。</p> <p>患者数につきましては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行下における受診抑制やインフルエンザの流行がなかったことにより、患者数が大幅に減少しています。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	55,547	60,934	21,450	△39,484
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	67,000	-	△67,000
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	110	74	1,322	1,249
経常収入 小計(a)	55,656	128,007	22,772	△105,235
給与関係費	77,337	86,035	16,724	△69,311
物件費	18,721	16,808	114,422	97,614
維持補修費	169	31,547	418	△31,129
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	121	124	9	△115
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	6,122	6,122	13,921	7,799
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,959	1,976	1,315	△662
退職手当引当金繰入額	1,688	479	△5,648	△6,127
支払利息	-	-	265	265
その他	-	-	81	81
経常費用 小計(b)	106,118	143,092	141,506	△1,587
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△50,461	△15,085	△118,734	△103,648
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	294,425	-	△294,425
特別収入 小計(d)	-	294,425	-	△294,425
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	294,425	-	△294,425
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△50,461	279,340	△118,734	△398,073
一般財源充当額	44,663	66,039	114,953	48,913
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△5,798	345,379	△3,781	△349,160

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	令和2年度は令和元年度と比較し、患者数が4,715人減少したことにより診療収入が39,484千円減少
給与関係費	令和2年度から診療業務等の運営を委託したことによる出務医師等に係る非常勤職員等報酬などの減
物件費	主に令和2年度から診療業務等の運営を委託したことによる診療業務委託料(99,285千円)の増

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	55,656	128,007	22,772	△105,235
行政サービス活動支出	100,320	138,213	134,982	△3,231
行政サービス活動収支差額	△44,663	△10,206	△112,210	△102,004
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	164,133	2,743	△161,391
投資活動収支差額	-	△164,133	△2,743	161,391
財務活動収入	-	108,300	-	△108,300
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	108,300	-	△108,300
収支差額 合計	△44,663	△66,039	△114,953	△48,913
一般財源充当額	44,663	66,039	114,953	48,913
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入) 休日急病診療所使用料 21,450千円
----------	-------------------------------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
受診者1人あたりのコスト	平成30年度	6,229人	17,036円	各年度の受診者数で算出し、令和2年度は受診者1人当たり61,685円のコストがかかっています。前年度と比較し受診者数の大幅な減少により、1人当たりのコストが増加しました。
	令和元年度	7,009人	20,415円	
	令和2年度	2,294人	61,685円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,976	5,049	3,073
未収金	-	-	-	地方債	-	3,735	3,735
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,976	1,315	△662
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	702,680	691,007	△11,673	固定負債	126,981	116,430	△10,551
土地	411,876	411,876	-	地方債	108,300	104,565	△3,735
建物・工作物	290,804	279,131	△11,673	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	18,681	11,865	△6,816
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	240	240	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	128,958	121,480	△7,478
土地	-	-	-	純資産	586,822	583,041	△3,781
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	12,860	13,274	414				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-	純資産の部合計	586,822	583,041	△3,781
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	715,780	704,521	△11,259
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	715,780	704,521	△11,259				

Ⅲ 財務構造分析

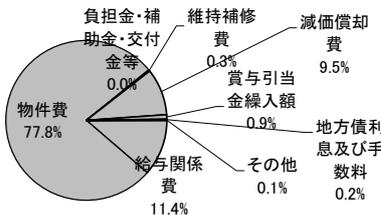
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	
事業従事人数	2人		12日	
給与関係費等	10,950千円	0千円	1,440千円	合計(千円) 12,390
内、時間外勤務手当	990千円			

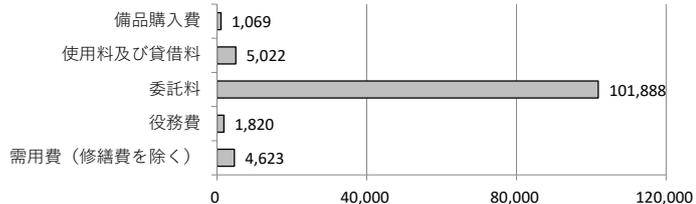
貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
事業用資産 建物・工作物	吹田市立休日急病診療所(建物)の減価償却による11,673千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立休日急病診療所
取得年月日	平成27年(2015年)2月4日
建物・工作物の取得価額	302,431千円
建物・工作物の減価償却累計額	23,300千円
利用料金収入	21,450千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			差 B-A
		平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	
施設維持補修費比率		0.1	10.4	0.1	△ 10.3
施設老朽化比率		4.4	3.8	7.7	3.9
受益者負担比率		52.3	42.6	15.2	△ 27.4
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		44.5	21.8	83.5	61.7
経常費用対公共資産比率		66.0	47.3	46.8	△ 0.5

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

・経常収入22,772千円のうち、21,450千円は、受診者からの診療収入によるもので、経常収入の94.2%を占めています。
 ・受益者負担率は、本年度は受診者数が大幅に減少したため、15.2%と低くなっておりませんが、本来は受診者の負担が収入の大きなウエイトを占める事業です。
 ・経常費用141,506千円のうち、114,422千円は物件費で、主に医師、薬剤師、看護師などの出務手当等を含む診療業務運営委託料にかかるもので、経常費用全体の80.9%を占めています。
 ・経常収支の差額は一般財源を充当しており、一般財源充当比率は83.5%となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

本事業は、毎年、経常収支差額が発生し、差額は一般財源から充当していますが、診療収入は、インフルエンザの流行等の季節的要因に左右されるほか、特に本年度は新型コロナウイルス感染症流行において、大幅な患者数減少となるなど、大幅な収入増が見込めないことから、今後も収支の改善は困難であると考えます。
 しかしながら、当診療所では、休日等の昼間における応急的な医療を提供する初期救急医療機関としての役割を担っており、市民の安心と健康を確保する上での重要な事業であるため、今後も継続して運営する必要があります。また、事業のより効率的な運営を目指して、更なる事務の委託や改善に積極的に取り組むことが必要と考えています。